

特選

全国公民科・社会科  
教育研究会会長賞

2022

## 第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# 生理の貧困と考え方

東京都・東京都立国際高等学校 2年 野村 美妃

私は学校で保健委員会に所属している。本当ならば行事での仕事もあるのだが、今年はコロナの影響で行事が簡略化されたり、普通とは違う形で行われたりしたため、保健委員として活動するのは日常活動くらいだった。そんな中、私が特別な仕事をしたなど感じたのは都立高校に生理用品が配られた時だ。その頃は生理の貧困が問題になっていて、その対策ということだった。実際にトイレに生理用品が置かれるようになってから、使っている人もときどき見て、置かれるようになってよかったと感じる。一つ課題があるとすれば、配られる数に限りがあるため、たくさん使われて学校に配られている分がなくなるとそのあとは、置けなくなってしまうということだ。だから、なくなったらその都度、何度でも配ってもらえるといいなと思った。また、先生からは来年も配られるかはわからないといわれているから、来年も配ってほしいと思う。

ところで、そもそも生理の貧困とはどういう問題なのだろうか。生理の貧困とは、経済的な理由などから生理用品を入手することが困難な状態にあることをいう。NHKによると学生の5人に1人が生理用品の入手に苦労しているそうだ。また、国際NGOのプラン・インターナショナルが日本の15歳から24歳の2,000人を対象に行った調査で、「生理用品を購入できなかつたり、ためらつたりした」と答えた人は36パーセントで、717人に上った。その理由としては、経済的理由が78パーセント、親が買ってくれないというものが5パーセントあった<sup>1)</sup>。経済的理由というのはまだわかるが、親が買ってくれないという理由もあることを知って、とても驚いた。私の家も決して裕福な家庭ではないが、買ってもらえないということはない。理解してもらえないのか、理解する気がないのかわからないが、どちらにしてもひどいことだと思った。しかも、「生理用品を購入できなかつたり、ためらつたりした」と答えた人のうちの12パーセントが「生理期間中、毎回または頻繁に学校や職場を休む」などしていることもわかった<sup>1)</sup>。生理の貧困の影

響によって、勉強をする機会や仕事をする時間を奪われてしまうことは、そもそもみんなが持っているはずの権利を奪われてしまうことと同じだ。生理というものの自体は女性なら誰にでもあるものなのに、その人が置かれている環境によって、あるはずの権利がなくなってしまう状況は変えないといけない。

また、この問題は日本だけの問題ではない。イギリスのスコットランドでは、2020年世界で初めて生理用品をすべての人に無料で提供する法案を、全会一致で可決した。コロナのパンデミックによってより深刻になった問題への大きな取り組みになった<sup>2)</sup>。そのほかにも、ニュージーランドやフランスでは、国費を投入して学校で生理用品を無料提供することを決定した。アメリカでは、少し前まで40の州で生理用品が消費税の課税対象になり、ぜいたく品と同じ扱いになっていた。アメリカでは生活必需品とみなされるものは消費税非課税になるため、食品や薬は非課税となり、いくつかの州では野球チケットやゴルフ場の会員券などの、多くの男性が買うものまで非課税になっていた。その中で、女性にとって必需品であるはずの生理用品は、課税対象となっていたのだ<sup>1)</sup>。しかし、去年ミシガン州で生理用品への消費税の課税が廃止された<sup>3)</sup>。このように世界でも、たくさんの取り組みがされている。

生理用品は女性が生きていく中で、どれくらいの負担になるのだろうか。今回はマイナビニュースの記事を参考にしたいと思う。まず、女性が一生のうちに生理である日数を計算する。仮に12歳から50歳まで38年間毎月生理があるとすると、一生のうちに生理である日数は約2,470日、年数に換算すると約6年9カ月以上になる。次に、生理にかかる費用だ。マイナビウーマンが2016年1月に22歳から34歳の働く女性を対象にしたウェブアンケートによると、最も多かった価格帯は500円から1,000円ということだった。そこから、毎月750円の費用がかかると考え、それが先ほど求めたように約6年9カ月続くとする。すると、一生にかかる生理用品の費用は約34万2,000円となる<sup>4)</sup>。私は正直この値段を見て、高いのか安いのかわからなかった。一生で34万円なら、安いのではないかも少し思った。しかし、これは全体の平均や多数派を考えて、計算して出た結果であって、これよりも多くかかる人もいることを考えないといけないなと思った。また、今は一生という長い目で見て考えたが、生理の貧困で困っている人は現在の状況に困っているから、一生のことを考えただけではわからないこともあるのだろう

など思った。

ここまで考えてきて思ったのは、なぜ生理の貧困という問題が最近になってでてきたのだろうということだ。生理は女性なら誰にでもあることだが、一人暮らしの学生など、お金があまりない人にとっては生理用品を買うのが大きな負担になってしまうのは、少し考えればわかることだと思う。しかし、この問題は最近まで問題とされることがなかった。この問題が大きくなったのは、コロナの影響で自粛生活が始まり、学生の収入が減ったことで、困る人が増えたからだと思う。それでも、コロナの前から一定数困っている人はいたはずだと私は考える。学生にお金がないのは、最近始まったことではないからだ。私は、今まで問題にされてこなかったのは、このような話題に対して話してはいけないという感覚があるからなのではないかなと思う。日本では性に関することを口にすることに対して、よくないと思うような風潮があるように感じる。確かに、そのような話を聞いていやな気持ちになる人もいるのかもしれない。しかし、その感覚をみんなが持っていることによって、生理の貧困のような問題がずっとみんなに理解されないものになっていたと思う。前にも出てきた国際NGOのプラン・インターナショナルによる調査で、生理用品を購入することができなかつたり、ためらったりした理由として、自分で買うことや親に頼むことが恥ずかしいからということを挙げている人がいた。しかも、それも少ないわけではなく、全体の25パーセントが恥ずかしいからという理由なのだ<sup>5)</sup>。この結果は、日本人が生理などに対して話しづらいものだと思っているということ、反映しているように感じる。

私は、生理の貧困の問題は生理用品の値段が高いことや、コロナの影響で貧困になる人が増えたことなどのお金の問題だと思っていた。しかし、考え方の問題も関係しているのではないかなと、この文章を書いている中で気づいた。アメリカでの生理用品に対する消費税の課税は女性に対する差別のように感じる。いくつかの州で、多くの男性が買うものは消費税が非課税になっていたにもかかわらず、女性にとって必需品の生理用品は消費税が課税されていたからだ。男性にとってはとても生活しやすい社会になっているのだろうが、女性にとっては不公平だと思わざるを得なかったと思う。今は、非課税とされている州もあるためよかったと思うが、これまで当たり前のように消費税がかけられていたのは、女性の目線に立って考えることが足りていなかったからなのかなと思う。また、日本で

生理用品を買うことに対して恥ずかしいという気持ちを持っている人がいるのは、日本人が性のことに関して、あまり話さないほうが良いという考え方を持っているからなのかなと思う。日本の性教育は遅れているということはよくいわれている。私は日本の教育しか受けていないから、世界の当たり前がどのようなものかわからないし、日本がなぜ遅れているのかもわからないけれど、その遅れがこの生理の貧困の問題にも関わってきているのではないかなと思った。日本の性教育がほかの先進国と同じようなレベルになれば、日本人の考え方も変わるのかなと私は考えた。

私にとって、生理の貧困は関係があるようでないような問題だった。私は困ったことがなかったからだ。しかし、学校で保健委員になったことで少し身近に感じることができるようになった。そして、この文章を書いていく中で、問題の原因には考え方が存在することに気がついた。それでも、私一人では日本の教育を変えることはできないし、大人になっても政治家にならないと自分の力で変えることはできないと思う。また、女性に対する差別が残っていてもなくすことはできない。今の私にできることは自分の考え方を換えることだと思ふ。人を変えるために自分がまず変わる大切だと思ふからだ。そして自分の考え方をきちんと換えることができたら、それを周りの人に広げていきたい。今私は保健委員会という、考えを広げやすい立場にいるから、行動を起こしていけたらいいと思ふ。まずは、自分を変えていきたい。

(注)

- 1) NHK クローズアップ現代「生理の貧困 社会を動かす女性たち」 2021年4月6日  
URL <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4530/>  
閲覧日 2022年2月21日
- 2) BBCNEWS JAPAN「生理用品、あらゆる人に無料提供へ 英スコットランドで世界初」 2020年11月25日  
URL <https://www.bbc.com/japanese/55068287>  
閲覧日 2022年2月21日
- 3) FRONTROW「アメリカのミシガン州が『タンポン税』を廃止、ここまで長い時間がかかるとは【生理の貧困】」 2021年11月8日  
URL [https://front-row.jp/\\_ct/17494330](https://front-row.jp/_ct/17494330)  
閲覧日 2022年2月21日

- 4) マイナビニュース「女性の負担は大きい!? 一生のうち生理にかかる日数とコスト」 2017年6月14日  
URL <https://news.mynavi.jp/article/20170614-cost/>  
閲覧日 2022年2月21日
- 5) 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン「日本のユース女性の生理をめぐる意識調査結果」  
2021年4月  
URL [https://www.plan-international.jp/activity/pdf/0413\\_Plan\\_International\\_Ver.03\\_01.pdf](https://www.plan-international.jp/activity/pdf/0413_Plan_International_Ver.03_01.pdf)  
閲覧日 2022年2月21日

